



□ 発行 芳賀町工業団地連絡協議会

□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 98

□ TEL 028(677)5033

□ <http://www.hokoren.com>

□ E-Mail : information@hokoren.com

□ 編集責任者 七井 真人

■ 栃木県知事との意見交換会開催

栃木県工業団地連絡協議会が主催する栃木県知事との意見交換会が2月9日宇都宮市内で開催され、芳工連から河合泰会長、富永英夫副会長、事務局長七井が出席しました。

この意見交換会は、県内8工業団地の現状や立地企業が抱える課題等について意見交換することで、本県の産業振興に資する施策への反映を目的としています。

県内8工業団地から代表役員と事務局長、栃木県から福田富一知事ほか産業労働観光部長並びに担当職員など総数28名が出席しました。



■ 福田富一知事の卓話概要

人口減少時代を迎え、どうやって稼いで、如何にして活力を低下させないで生き残っていくか、都道府県間或いは市町村間の生き残りをかけた時代に突入した。

各企業の皆さまが栃木県に留まって事業継続いただけるよう、操業し易く、コストが安く、収益に結び付く環境整備を進めることが行政の役割と心得ている。

各工業団地の皆さまとの意見交換会で貴重な意見を頂戴していますので、ご意見ご要望に沿って地域経済の発展に努めて参ります。

地方創生の取り組みをさらに深化させるため、県内企業の人材確保と育成強化を促進し、創業や企業の生産性向上の支援にも取り組みたい。

UIJターン事業を通して移住定住、大学生のUIJターン、仕事支援を推進するため首都圏92大学と就職促進協定を締結し、キャンパス内で県内企業の求人情報、企業情報などを発信するとともに相談業務も行っている。

県内ものづくり産業への就職については、奨学金を県が肩代わりする制度を立ち上げ、ものづくり産業への就職支援を続けたい。

新年度予算では、先端ものづくり産業の振興事業として航空機、医療機器、次世代自動車などの先端ものづくり研究開発への助成をする。また、航空機産業の人材育成研修、ヘルスケア関連産業やロボット産業の振興を図りながら雇用創出を図りたい。



とちぎ技能五輪が11月24日から27日、アビリンピックが11月17日から19日に開催される。来場者15万人、経済効果25億円と推計している。全国有数のものづくり県なので、良い人材を供給できるよう、若い人に技術・技能というところに目を向けてもうらえる大会となるよう期待している。また、障害者の雇用アップ、社会参加、自立に結び付けて行きたい。

芳賀工業団地からご要望のあった信号機設置については、ホンダ開発(株)様と日本梱包運輸倉庫(株)様間の25メートル道路交差点へ3月末までに設置します。

■ 芳工連 河合会長の発言概要

芳賀工業団地の立地企業数は100社で、そのうち会員企業は82社です。

従業員数は約23,500人です。82社の業種は48社が研究・開発を含む製造業、24社が運輸倉庫業、10社が旅行会社や自動車整備会社などのサービス業です。1月に取りまとめた立地企業の景況調査結果に基づき芳賀工業団地立地企業の景況をご紹介します。併せて栃木県への要望も聴き取りましたのでご説明いたします。調査対象は100社の立地企業で、うち53社（回収率52.5%）から回答がありました。



質問1、『今期状況と来期の見通し』については、景況感は「不変」の割合が高く、今期及び来期とも全体として大きな変化はありませんでした。ただし、「悪化」については、今期（平成28年10～12月）の状況は、前年同期と比較で7ポイント減、今年前期（平成28年7～9月）との比較で1ポイント減となっています。

さらに、来期（平成29年1～3月）の見通しは「悪化」が、前年同期との比較で1ポイント減、今期（平成28年10～12月）との比較で12ポイント減となっていることは特徴的です。

質問2、『設備投資について』については、「実施なし」の回答が、今期、来期ともそれぞれ49.1%で、多くの企業は積極的な設備投資を控えているようです。

また、設備投資を実施した、或いは計画している事業所においても、その内容は付帯設備や車両・運搬具などに止まり、土地、建物など業容拡大を見据えた本格的な設備投資には至っていない状況です。多くの企業は、内外経済の不透明感などを背景に、前年度と同じように設備投資に慎重なことが分かります。

質問3、『今期直面している経営上の問題点』については、「従業員の確保が難しい」、「製品ニーズの変化対応」の順位は前年度の調査と同様でしたが、3位の「熟練技術者の確保難」は今年度の調査で初めて上位に選ばれた項目でした。

少子高齢社会にあって人手不足は年々深刻さを増しているようです。また顧客ニーズの変化が早いことから、変化に対応できる製品開発マネジメントなど厳しい現実が読み取れます。

さらに、ものづくり産業の強みとなっている高度の熟練技能を基盤とする「現場力」は、団塊世代の大量退職を契機として弱体化がより深刻さを増している状況です。

質問4、『栃木県に対する要望』については、1点目が、JR宇都宮駅から芳賀工業団地に向かう主要地方道宇都宮・向田線（鬼怒通り）の交通渋滞について対策を望む意見でした。

2点目は、LRT事業に関して交通事故多発と交通渋滞発生への懸念を訴える意見があり、宇都宮テクノ街道の車線を追加整備する要望でした。

3点目は、LRT事業の軌道工事中及び完成後に心配されている交通渋滞を回避するため、迂回機能を果たす国道408号バイパスや主要地方道の整備を、LRT事業着手前に完成するよう要望がありました。

これらは企業の事業継続計画、いわゆるBCPにおける上位の要件であります。ただし、このことは昨年10月31日に県産業労働観光部長さんをはじめ担当の皆様にお骨折りをいただきまして、県県土整備部長へ陳情という形でお願いした経緯があります。

県県土整備部においては、鋭意ご努力いただいている状況は承知しておりますが、会員企業から改めて要望がありましたので、本日ご説明をさせていただきました。

■ 栃木県知事からの回答

芳賀工業団地から道路渋滞対策とLRT整備関連の交通渋滞対策についてご要望がありました。国道408号バイパスなどは真岡工業団地や清原工業団地にも関係し、鬼怒通りの交通渋滞で迂回路として機能する路線です。

また、鬼怒通り渋滞対策の迂回路となる宇都宮テクノ街道については、宮環の雷電神社付近で一部用地買収ができなかったが、用地取得が完了したので早期に暫定2車線での全線供用を目指し、今年度中に施工を開始します。

また、宇都宮テクノ街道の4車線化については、暫定2車線で全線供用開始された後に4車線化の事業着手を検討する2段階で考えています。

国道408号バイパスの宇都宮・高根沢バイパスは、清原工業団地を通過して氏家へ向かう路線のうち、県道宇都宮・那須烏山線の鷺ノ谷交差点から南へ2.7kmが今月末に暫定開通します。

LRT事業については、鉄道線路敷設工事の施工認可申請を国へ提出しなければならないが、宇都宮市長選の選挙結果もあって、用地取得、着工の見通しは立っていない。現在は説明会を開催し多くの市民の皆様理解を得る努力をしている。

■ 懇親会を開催

意見交換会終了後に懇親会が開催され、河合会長の乾杯発声で和やかに祝宴が始まりました。福田富一県知事をはじめ県幹部職員と親しく歓談の時間をもつことができました。福田知事と隣り合わせで着座した河合会長は、知事と幅広い分野の話題で盛り上がり、有意義な懇親会だったそうです。



■ 第36回ボウリング大会開催

総務企画部会では、会員企業様相互の親睦を深めることを目的としてボウリング大会を開催しています。

今年度第2回目となる第36回ボウリング大会を2月8日に宇都宮ゴールドレーンで開催しました。

13社56名の参加があり14チームで熱戦を繰り広げました。

会員企業様には、事業目的をご理解いただき大会を盛り上げるため全面的な参加協力をいただきました。

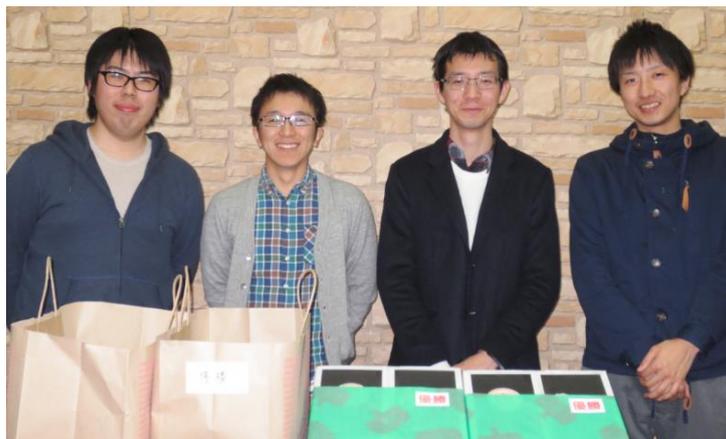
大会開始を告げるホイッスルが会場に鳴り響くと、参加者から盛大な拍手と歓声が沸き、各チーム一斉に投球を始めました。

ストライク・スペアーを取るたびに、若手社員と上司がハイタッチで歓喜に沸く姿は微笑ましい限りです。華麗な女性のプレーでは一際大きな声援が響きました。

熱戦を制したのは(株)ショーワ様(写真右)でした。前回9月の大会に続いて2連覇を果たしました。成績は2ゲーム合計1,274点(前回1,160点)の高得点でした。準優勝はサンクレール(株)様、3位は(株)オートテクニックジャパン様でした。

応援に駆け付け、熱い声援を送る上司との交流もボウリング大会ならではの姿です。

豪華賞品のご提供は、(株)ホンダテクノフォート様、(株)協永堂印刷様、本田技研工業(株)生産本部生産企画統括部様、(株)サンクレール様、日本梱包運輸倉庫(株)様、(株)栗崎歯車製作所様、(株)ベストロジ栃木様、(株)オートテクニックジャパン様、ホンダエンジニアリング(株)様、(株)本田技術研究所四輪R&Dセンター様でした。毎回有難うございます。



■ 環境整備部会・安全衛生部会

安全衛生部会と環境整備部会が合同主催する優良企業視察研修会を2月22日開催しました。

会員企業様13社からの参加者及び事務局職員の総勢23名が、東京羽田空港内のJAL機体工場を視察研修しました。

芳工連事業初参加の方もおいでになりましたので、バス乗車後に自己紹介、会社紹介、視察研修の意気込みなど、参加者全員からスピーチをいただき情報交換で親睦を深めました。



各企業で安全衛生に関する部署に所属する方や会社を代表する方も多数参加され、高い安全性が要求される航空機の点検整備に対する関心が高く、参考になることは漏らさず会社に持ち帰りたいとの欲求に溢れるスピーチがあり、今回の視察研修に対する強い意欲が伝わりました。

工場見学では、パイロット、航空整備士、客室乗務員などの経験者が、航空教室及び格納庫見学などの場で説明を担当されました。

航空整備士は、飛行機の隅々を点検・整備し安全、確実に品質の高い航空機を提供し、お客様に「安心」と「満足」を届けていることが良く理解できました。

最新鋭の飛行機ボーイング787の主翼は、従来アルミ製でしたが鉄より軽く、強く、錆びにくい炭素繊維混合材になったことで燃費向上、離着陸時の騒音低減が実現したそうです。

機体に使用されている部品は、三菱重工業、川崎製鉄、東しなど日本メーカーが使用され、その占有率は35%との説明でした。高い品質を誇る日本企業の製品が最新鋭航空機の製造を支えている現実に驚きました。

早速、格納庫見学となりました。最初目に飛び込んだのは圧倒的な広さの格納庫でした。飛行機を3機を格納でき2機同時に整備可能とのことでした。

飛行年限6年から8年ごとにシートや内装をはずし、1カ月間かけて隅々まで点検・整備を実施する整備工場です。

また、別の格納庫では、空港に到着してから次にフライトするまでの間に、国内線の飛行機を点検確認する運航整備が行われていました。

JALの整備水準の高さは世界一との評価だそうです。その証拠に20年くらい飛行した飛行機は、整備の良さから中古飛行機としての需要が高く、世界中のエアラインに引き取られ、その後も長く飛行を続けているそうです。

飛行機の安全運行に関しては、航空法に基づく航空運送事業者の安全確保に関する厳格な制度が整備されていますが、それだけではヒューマンエラーによるリスクは無くなりませんので、事故を起こさないよう幾重もの安全チェックがなされているそうです。

参加された会員企業の皆さまは、安全衛生に関する意識が高く、ゼロ災害・ゼロ疾病を目指して継続的な安全衛生管理を自主的に行っていますので、今回の視察研修を契機として更に充実した安全管理を推進されるものと思います。

参加者から、「現場を体験する今回の視察研修は大変有意義だった」などのご意見をいただきました。



■ 労務管理セミナー参加

真岡労働基準協会が主催する労務管理セミナーが2月10日真岡市公民館で開催され、真岡労働基準監督署の長田監督課長から「過重労働による健康障害防止対策について」、栃木労働局の吉永雇用環境・均等室長から「改正育児・介護休業法及び改正男女雇用機会均等法について」、栃木労働局の坂上有期特措法高齢者認定調査員から「労働契約法の無期転換ルールとその特例について」と題する3つの講演があり、芳工連会員企業様の労務管理担当者の皆さまも受講されました。



過労死や過労自殺の背景として、職場の長時間労働が問題視されて久しいのですが、改善は遅々として進まないことから、国は関係法令を一部改正し、実効性を上げるための周知に努めている、との説明です。

また、50人以上の従業員を雇用する事業場においては、昨年12月からストレスチェック制度が法律で義務付けられました。

真岡労働基準監督署の長田課長は「過重労働による健康障害防止対策について」と題する講演で、日本では過労死で年間200人弱が死亡している。1人当たりの年間総実労働時間は1800時間でオランダと比べると年間約350時間多い。OECD加盟国で日本は22位と先進国のなかでも低いレベルにある。

また、年次有給休暇取得率は16年連続して5割を下回る水準で推移しているので、時間外労働が増加していないことを確認することが求められている。有給休暇の取得促進を図るため朝型勤務の導入、フレックスタイム制の導入、ノー残業デー設定などにより、時間外・休日労働の削減に取り組んで頂きたい、と説明されました。

妊娠・出産・育児期や家族の介護が必要な時期に、男女ともに離職することなく働き続けることができるよう、仕事と家庭が両立できる社会の実現を目指し、雇用環境を整備するため、育児・介護休業法、男女雇用機会均等法の一部改正があり平成29年1月から施行されたことから、栃木労働局の担当者から詳細な制度説明がありました。

芳工連日誌

【2月の実績】

- 8日 第36回ボウリング大会
- 9日 栃木県知事との意見交換会
- 10日 労務管理セミナー
- 13日 団管連主催事務担当者研修会
- 22日 優良企業視察研修会
- 22日 資源ごみ回収

【3月の予定】

- 6日 安全衛生部会
- 8日 総務企画部会
- 9日 環境整備部会
- 10日 交通防犯部会
- 21日 第5回役員会
- 22日 資源ごみ回収